

「アンニョンハセヨ〜！」

韓国一人旅

〜2週間で7都市へ〜

10月27日(水)14時15分、

福岡から釜山へ、フェリーで出発！

「韓国一人旅」〜2週間で7都市へ〜

目次

1	日本の未来が見えない	2	5日目 無情なバスのオマケ	26
2	準備といえは	3	23	
3	前日 宿とフェリーの予約	4	24	
4	1日目 さ、行こう	4	25	
5	迷える日本人	5	26	
6	ビビンパ食べた	6	27	
7	2日目 理想のような人	7	28	
8	あこがれの屋根付きエスカレーター	8	29	
9	西面(ソミョン)に、『お口の恋人』発見	9	30	
10	金剛公園を甘く見るな!	10	31	
11	北九州の前田さん	12	32	
12	3日目 梵魚寺(ボモサ)で祈る人	13	33	
13	姑堂峰(コボンタン)に登ろう	14	34	
14	高速バスは『慶州』へ走る	17	35	
15	天馬が塚の金冠	18	36	
16	慶州のお粥は旨くて、賑やか	18	37	
17	慶州(キョンジュ)の銭湯	19	38	
18	4日目 鷄林(ケリム)は心の故郷	20	39	
19	韓国は文化的先輩	22	40	
20	仏の国をと建てた寺 『佛國寺』	22	41	
21	大邱の宿が見当たらない	24	42	
			43	
			44	
			45	
			46	
			47	
			48	
			49	
			50	
			51	
			52	
			53	
			54	
			55	
			56	
			57	
			58	
			59	
			60	

47	11日目	これからチエコへ	61
48	昔ながら小雪気	『景福宮(キョンボンクン)』	61
49	男なら唐辛子	『国立民族博物館』	64
50	トト食堂	64	
51	12日目	豆乳の種類	66
52	李儁(しゆん)の無念	67	
53	一瞬の好青年	68	
54	人生50年	69	
55	13日目	リンゴよごめん	70
56	いい話だなあ	71	
57	未来は見えたか	73	
58	短歌再掲	74	

「中国一人旅」その1 77

〈山東省・南京など〉編

「中国一人旅」その2 163

〈東北部・北京など〉編

1 日本の未来が見えない

韓国は一人で行くには近くて遠い国だ。第一、あの〇や口、フヤトを組み合わせた文字が、近づきガタイ。

遙くかの昔、中学校では百濟(くだら)から渡来した王仁(わに)が漢字を日本に伝えたと言ったが、なぜ漢字を止めたんだろう？

それに秀吉の朝鮮出兵や日韓併合の加害国民として、このままでは死ねん気持で、私、男〇十三歳、遅まきながら韓国に一人行ってきた。〇は後ほど文中で...

また別な理由づけ：

①今(当時、2004年)の日本はどうなってるんだ？



オレオレ詐欺に練炭自殺、幼児殺しに闇ワイロ、年金不安に財政の大赤字、これじゃ未来が見えないではないか。ちよつくら対岸から日本を眺めてみよう。

②序でにじやないが、迷惑を掛けた国に、謝っても来よう。

③憧れの、単独海外旅行の実力をつけたい。

ま、快い緊張とリラックスで、心を開放して、柔軟に見る目を持つため、かな。

④定年後の生き方の一つのモデルをつくる。



こんな目標を持って、二年前からNHKラジオ講座で、

ハングル(中国語、ス

ペイン語：も)を聞いて

勉強した。

途中で、止めたりも

したが、ま、旅行会話

集を持って行けば、何

とかなると思っ行って

たんだが：。

ナントカ力になった！

2 準備といえ

八月の半ばから、ダ

イアモンド社の海外旅

行ガイドブック「地球

を歩く『韓国』」を見て、小ノートに①見学地、②交通

手段、③宿の予定表を作成した。

また、ハングルで①電話での宿の予約と、バスや電車

の利用に必要な会話を作文して、ノートに少し準備した。

旅行日程は約2週間とし、帰りがはつきりしないので、フェリー往復にした。時期は紅葉を楽しめて天気も比較的安定な、十月下旬〜十一月上旬を設定した。

また今後の便利も考えて、海外対応の携帯電話機を購入した。

宿はガイドブックに地図付で載っているの、前日午前中に電話して、予約を取った。

ホテルと名が付けば高いが、ヨグアン(旅館)やモ

テルなら2万5千w(wは韓国のお金ウオン、以下同じ)

位であり、それで通すことにした。2万5千wは日本円

で約2千5百円だった。wの約10分の1が円だ。

旅行かばんは、伸縮する持ち手と底部に車付きで、愛

称ゴロゴロ、ゴロちゃん。それに小リュックサック。

身なりの上下は、写真で見えて頂くとして、結構汗もか

いたので、上着のシャツは三枚欲しかった。

下着はほぼ毎晩洗濯した。そして帽子2種類、衣文掛

け2個、折畳み傘にうちわ、磁石にルーペ、薬類、当面

の飲み物、懐中電灯、携帯の充電器、上履きスリッパ、

カメラに双眼鏡、及び洗面具。

3 前日 宿とフェリーの予約

十月二十六日(火)午前、明日の釜山の宿を予約。電

話は、010・82に0を除いた相手先番号で通じる。

相手が「ヨボセヨ(もしもし)？」と出るから、先ず、

「日本語OK?」と聞き、だめなら、

こう言う間にも足は進み、『禪利大本山・金井山梵魚寺』の曹溪門前でカメラに納まっていた。



世界が色鮮やかに描かれている。

そしてこれらの仏たちの前で、懸命に伏しては立ち、また伏しては拝む女性が一人・二人いる。

庭正面の一段上がった右の『観音殿』の前にはテントが張られ、殿中と唱和しながら4〜50名の女性が「ボウカイサンゼン、ボウカイサンゼン、」と繰り返して、読経を続けている。

この古刹も新

羅時代の創建を、やはり秀吉軍の役で焼失し、1717年に再建されたものとの事。真に悪い先祖で申し訳ない。入った中庭の

右に毘盧殿があり、中央に御本尊、左右には弟子たちの像が並んでいる。また、後ろの壁には同じ本尊と浄土の

中央の『大雄殿』左右の柱には「本来非白巨」「無短亦無長」とあり、同じく「ムリウリソウカ、ムリウリソウカ：」と大勢の声がする。

左隣の『地藏殿』にも菩薩たちと、足元の「地藏菩薩本願経」を捲りながら、「ジーサンブーサン」と、平伏読経している信徒たちの姿がある。

この静かな山中に、これほど熱心に、何かを祈る人々の居ることを真に心に留めて、寺を左裏へ出た。

【山中のポモサの秋に何祈る

平和の御世に生きし幸せ】

13 姑堂峰（コダンボン）に登ろう

梵魚寺は昨日の金井山城の北門への登山口でもあった。寺を出た左下の道からは、三々五々身軽な、あるいはリュックを背に若者たちが上って来る。

十時二十分、私もその心積もりでは無かった「北門まで1、4回」の道を、案内標識と若者の今日を楽しむ雰囲気誘われて、行ってみることにした。その気持になったのは、もう一つ。溪流沿いに花崗岩で組まれたような、足元の自然の石段の登山道と周りのうれしい雑木林、そしてこれらの自然のしくみをやさしく解説してあるガイド板との出会いだっただけだ。

腰の高さで、子供と見下ろすように設置されたガイド板には、きれいな写真刷りで「溪流の生き物、ヤマメ・サンショウウオ・カゲロウ・ザリガニ」とか、「かえでの葉